1. 休暇の必要性

休暇を取得することにはいろいろな意義があります。まず頭に浮かぶのが、心身のリフレッシュや、家族の一員としての役割を果たし家族とのきずなを深めることでしょう。ITの進展に伴いテクノストレスが増大し、企業間競争の激化やリストラが進行する中でうつ病や自殺者が増加していますが、こうした状況を改善するためにも休暇取得は、今まで以上に重要になってきています。

また、国際化や情報化の中で、個々の労働者に求められる職業能力は、より高度に、そしてより専門的になってきますが、そのためには絶えず職業能力を磨くための自己啓発を行っていくことが重要です。少子高齢化のなかで地域活動やボランティアの重要性も高まっています。こうした自己啓発や社会活動をするためにも、休暇取得が必要です。

しかし実際には、休暇取得率は、それほど増加していません。下表に示すように、年次有給休暇の付与日数は増加していますが、労働者が実際に取得する休暇の日数はほとんど変わっていません。このため取得率はむしろ減少しています。

つまり、休めるはずの日が増えているのに、こうしたチャンスが実際には活用されていないのです。

年次有給休暇の取得状況

	労働者1人平均付与日数(日)	労働者1人平均取得日数(日)	取得率(%)
昭和 55	14.4	8.8	61.3
60	15.2	7.8	51.6
平成 2	15.5	8.2	52.9
7	17.2	9.5	55.2
8	17.4	9.4	54.1
9	17.4	9.4	53.8
10	17.5	9.1	51.8
11	17.8	9.0	50.5
13(12年度)	18.0	8.9	49.5

資料出所：厚生労働省「就労条件総合調査（旧 賃金労働時間制度等総合調査）」

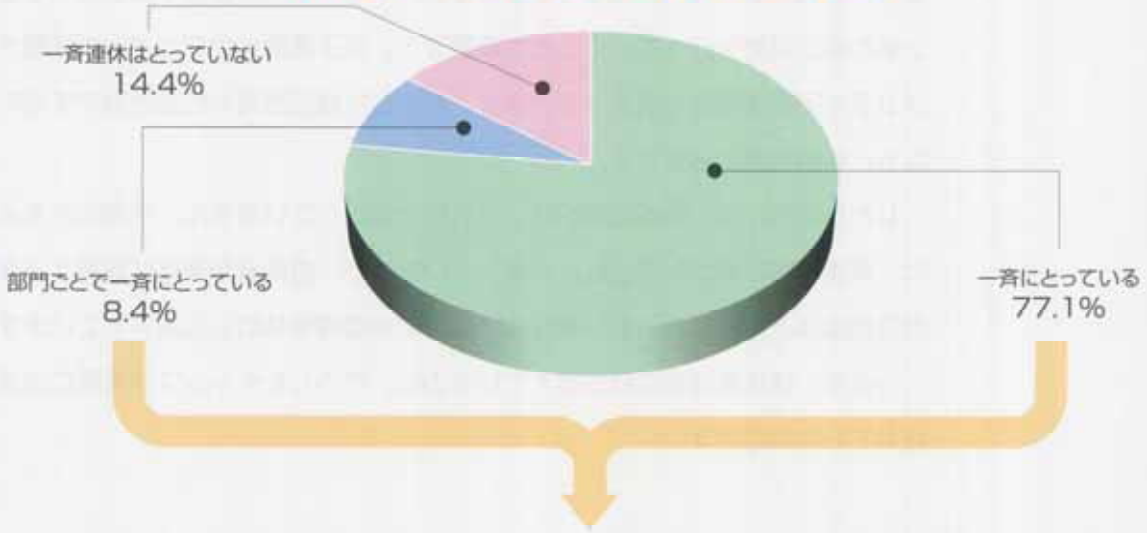
2. ゴールデンウィーク及び夏季連続休暇の取得

ゴールデンウィークや夏季は、比較的長期の休暇が取りやすい時期です。
ここでは、この2つの時期にそれぞれどのくらいの休暇が取られているかみてみましょう。

ゴールデンウィークの連続休暇

8割強の事業場が3日以上の連続休暇を「事業場または部門ごとで一斉に」取っています。取得日数は暦に影響されますが、下表のように、通算で※7日程度の休暇を取っています。

平成13年　ゴールデンウィークの連続休暇の状況



ゴールデンウィークの連続休暇の通算取得日数の分布（3日以上通算分）

	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日以上	平均日数
										(%)	(日)
平成10年	14.5	32.7	14.9	2.6	27.0	1.1	0.4	2.5	3.8	0.3	5.4
平成11年	0.6	14.7	49.7	2.1	27.7	1.8	0.9	0.4	0.8	1.4	5.7
平成12年	5.9	1.0	46.4	3.0	2.1	12.4	25.7	3.1	0.1	0.3	6.5
平成13年	0.3	12.6	1.7	0.1	41.9	15.9	24.1	2.2	0.3	0.9	7.3
平成14年(予定)	1.2	9.6	1.6	2.9	54.6	3.6	12.6	12.4	0.7	0.8	7.3

資料出所:厚生労働省労働基準局賃金時間課調べ
注1）本調査は、各都道府県の主要企業、地場産業から抽出した1,180社及び東証1部上場企業のうち東京都に本社を置く企業から抽出した150社、計1,330社にアンケート調査を実施したものである。
注2）連続休暇とは、3日以上連続した休暇をいう。
注3）平成14年(予定)は、休暇予定が「未定」を含まない。

※3日以上の連続休暇の通算ですので、「3日+3日」、「3日+4日」、「3日+5日」といった分割した休日も含みます。